

# えぽっく

八重洲古書館  
RETRO REVALUE RECYCLE

創刊 8 号  
2000年10月31日発行  
中央区八重洲2-1  
八重洲地下街  
TEL033272-2888

## 日本の古本屋

その2

読書週間と共に、神田神保町では『古本まつり』が開催され(11/3迄)マニアの皆様には楽しいシーズンと推察いたします。

古書・古本の世界は『アナログの世界』と思いこんでいたら、デジタル化が進み、インターネット上の取引がものすごい勢いで成長しているそうです。私たちの業界団体である古書組合が『日本の古本屋』と言うホムページを運営していますが、月間アクセス数が100万件に迫るというのですから驚きです。そのおかげで、システムに大なり、接続できませんでした。読書週間改善されましたのようになったようですが、

日本  
古本屋  
の

大きな負荷がかかことが度々起こりに間に合うように、快適な環境に決済システムの導入等、更なるシステムアップの計画があるそうです。

金井書店は独自にホームページを開設していて、約七千点の商品をご紹介しますが、ご覧になったことはありますか？私たちは、皆様に本との出逢いを求めてご来店いただけるように、魅力ある店造りを心がけておりますが、同時にホームページもご期待に添えるように工夫しております。是非、ご活用ください。

書物には色々な魅力があるので、商人の立場と違う価値観が皆様におありのことと思います。直接書物に触れていただくことにより、新たな出逢いもあることでしょう。その新鮮な出逢いをご提供できる、『楽しめる古書店』を私たちの手でご提供したいと思っております。神田神保町とは一味違う古書店を、21世紀に相応しい古書店を創造して、皆様と共に『書物』と一緒に生活していきたいと思っております。皆様のご利用をお待ち申し上げます。相変わらずお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

八重洲古書館店長 渡辺明子  
金井書店八重洲店店長 川上亜衣子  
スタッフ一同

## スタッフのメッセージ

最近、引越しをしました。

八重洲で働き始めて一月半、通うのがつらいほど遠い所にいたわけではないのですが、少しでも近づいて通勤を楽しみたいという一心でてきぱきと事を進めてしまいました。なにしろ急だったもので、まとめてお休みをもらう間もなく、まあ2連休でなんとかかなるだろうと踏んで引越しの日を決定。しかし仕事から帰って徹夜の荷造りを始めると、洗濯機一つ動かすのにも相当な時間と労力を要し、思うように運びません。

友達に手伝いに来てもらえば良かったなど、後悔と焦りとで、どこから手を付けたら良いのかわからずウロウロオロオロ…。引越しの業者さんが来て荷物を運び出している時にも、私はまだダンボールに物を詰めている状態でした。詰めているというより、手当たり次第放り込む、という感じだったので、新居で荷解きをする方がさらに大変です。引越してから2週間たった今でも、まだ行き場がなくダンボール箱にごちゃごちゃ入っているものがかなりあります。

前から『行動力はあるよね』と言われてきただけあって、思い立ったらすぐ実行してしまう人間のようなのですが、今回はさすがに甘かったかと思知らされました。ただ突き進むのではなく、少し離れて落ち着いて考える事もやはり大切なのですね。

部屋の片づけもさる事ながら、当面の課題は恥ずかしながら、油断して寝坊 遅刻をしないこと、です。これからの時期、ますます布団から出られなくなってきますが、寝過ぎないようにと目覚し時計を一つ増やしたりしています。

八重洲店 八木裕見子

最新情報はインターネットホームページをご覧ください。

<http://www.kosho.co.jp/>

RETRO = 懐古趣味  
REVALUE = 再評価する  
RECYCLE = 再利用、環流する

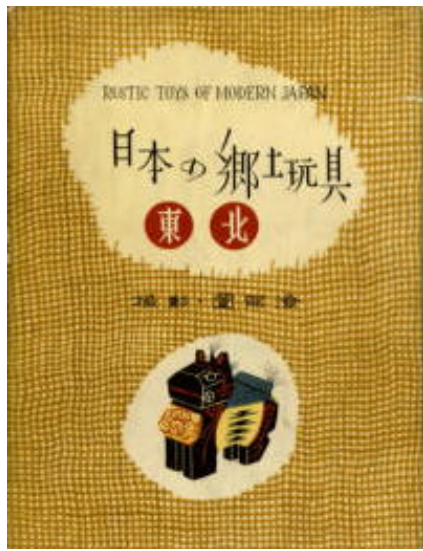
読み終えた本、昔の本をお売り下さい

ご意見ご感想ご提案をお待ち申し上げます。  
下記宛にお寄せ下さい。

金井書店営業本部  
〒161-0032 東京都新宿区中落合42116  
FAX 03-3953-7851  
E-mail: office@kosho.co.jp

20世紀の玩具

# 昔のおもちゃや 今のおもちゃ



現住では、「おもちゃ」と云えば、アハート専門店に並ぶ商品を指す言葉になってしまいましたが、今よりもずっと昔、まだおもちゃ屋さんがほとんど存在しなかった頃は、「おもちゃ」と云えば、仕掛けや美しさを見て楽しむ民芸品に近いものだったり、すぐ近くにある自然だったりしました。前者は、特に「玩具」と呼ばれる物たちです。今では、なかなか見る事の出来なくなってしまった、この「玩具」を中心に、日本の伝統的なおもちゃの世界を、また、子供の頃に遊んでいた懐かしいおもちゃを、童心にかえて、覗いてみたいと思います。

日本の伝統的なおもちゃ「玩具」と云うと、もっとも身近なところでは、お正月の遊びに使われる、独楽や凧・羽子

板、歌留多や双六などがそうでしょう。また、節句のお飾りの雛人形や五月人形もそうですし、今では民芸品になってしまった、張り子や鞠も、りっぱなおもちゃです。他にも、からくり人形や達磨など数えきれないくらい多くの種類がありますが、基本的に、こうした玩具たちは、それぞれが郷土色にあふれ、地方によって、様々に形をかえて存在しているものです。また、古いものでは平安や鎌倉の時代から、新しいものでも江戸の時代から受け継がれてきた伝統あるものですので、呪術的な意味合いの含まれるものも多くあり、また今日で云うところの『古典芸能』と密接に関係しているものも数多く見られます。

例えば、張り子で最も一般的なのは、犬の張り子ですが、起源は平安の昔にさかのぼるこの犬張り子は、犬はお産が軽いため、安産のお守りでした。また、魔除けとして、狐や狼などの人間を害する動物から護ってくれるという意味合いもあり、氏神に奉納したり、出生のお祝に贈ったりしたといひます。

端午の節句に飾る五月人形と云えば、金時や鐘馗が思い浮かびます。この金時人形は、坂田金時の子供の頃の姿で、金太郎の事です。坂田金時は、実在しており、今昔物語などにも登場する有名な人で、源頼光の四天王の一人として、鬼退治に出かけたりするのですが、閑話休題、金太郎に話を戻すと、昔話でも分かります。元気いっぱいの男の子です。一方の鐘馗は、中国の神様で、疫病神を追い払うといわれており、どちらも、子供の健康への願いが込められているのです。また鐘馗は、能にも登場します。



からくり人形は、お茶を運ぶものなどが有名ですが、美しい女性の顔が、糸を引くだけで鬼に変わってしまうものは、文楽にもそのまま使われています。また、羽子板は、その時々

人気のある役者の姿が、押し絵で飾られるようになっていきましたし、糸鞠は、その大きさや模様は地方によって

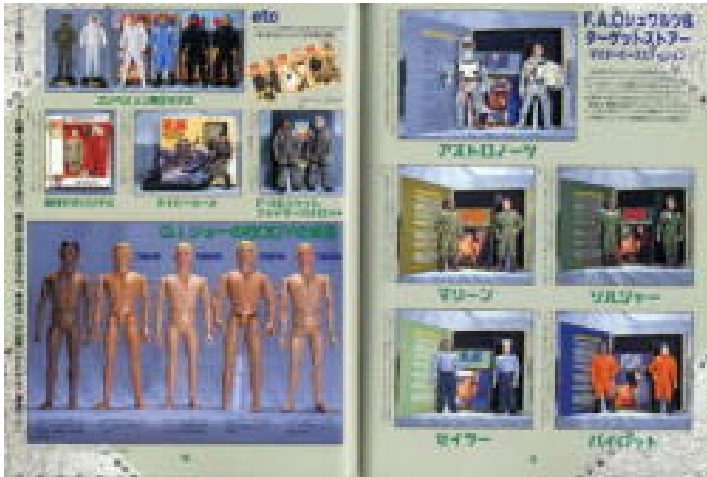
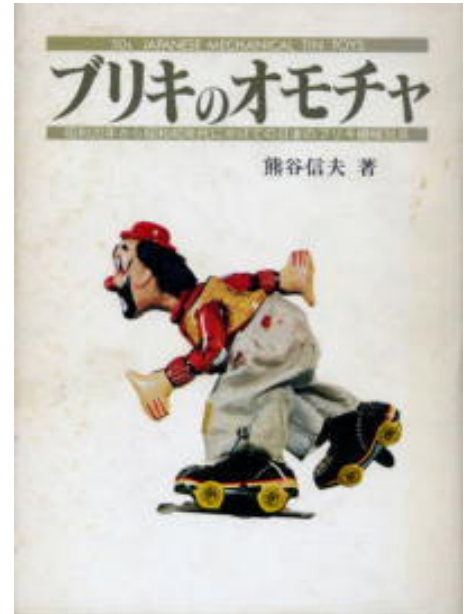


遅つきました。

ひとつひとつ挙げていけばきりがありませんが、もともとこういった玩具は、子供の為のものではなく、大人の遊び道具であったり 様々な願いを込めて飾られるものだったということです。それが、いつしか子供のおもちゃとなったのは、遊びの楽しさや、見た目の美しさに引かれた子供達が、それらを手取るようになったからではないでしょうか。今では、これらで遊ぶことはまずないことですが、郷土玩具として、今尚伝統が受け継がれているのは、とても貴重な事だと思います。

一方、昔懐かしいおもちゃと云えば、めんこやコマ、お手玉・ビー玉などでしょう。また、竹馬や竹トンボを始め、折り紙やトントン相撲など、自分達で作ったものを思い出すかもしれませんし、花冠や笹舟やどんぐりのコマなどの、自然が提供してくれる素材で工夫して遊んだものたちを思い浮かべるかもしれません。共通することは、どれも手軽で、複雑な操作も難しいルールもなく、必要なのはただ一緒に遊ぶ友達と、ものによっては、広い場所や自然の草木くらのものだという事です。今では、めんこで遊んでいる男の子や、お手玉で遊んでいる女の子の姿を見る事は全くありませんし、竹トンボが空を飛んでいるのも、笹舟が川を流れていくのも、めったに目にする事はなくなりました。これらも、起源を辿れば、郷土玩具と同じく、平安~江戸に行き着く、日本の伝統的な遊びですし、先に挙げた伝統芸能との結びつきもあるものなどありますが、いつのまにか廃れてしまったのは、とても残念な事に思えます。

しかし、今でも廃れていないものもありますし、形を変え、姿を変え、今に通じているものもあるのは、事実です。例えば、シャボン玉。虹色に輝くはかないシャボン玉は、昔と変わらず、子供の心を捕らえて離さないものです。また、雛人形は、ままごとに姿を変え、外国で発達したドールハウスを集めたり作ったりするのもこの流れでしょう



それでは、現在のおもちゃはというと、各種のコンピューターゲームや、フィギュアと云われる人形類がそうでしょう。これらの特徴として、子供だけではなく、大人の愛好者も多いというものがあります。確かに、コンピューターゲームは、昔のおもちゃとは比べ物にはならないくらい、刺激的で、なおかつとても知的な遊びです。また、人形類は、アニメや漫画などのキャラクターなどが中心で、とても精巧かつ鮮やかに出来ており、再現性の高さだけでなく、親しみやすく見ていて楽しめます。前後しますが、プラスチックやゴムの人形ができる前のブリキ

のおもちゃ類も、ユーモラスで、温かみがあり、また郷愁を誘われる感じがします。

この度の内容は、全体的に20世紀以前の部分も多くありますが、それらの歴史も含めて、現存する郷土玩具及び現在の玩具を眺める、とら観点から、あえてその背景になる部分にも、触れる形となりました。

20世紀懐古館として、展示・販売するものは、郷土玩具が中心、と一よりほとんどですが、時期を同じくして、八重洲の地下街では、今のおもちゃである、先述した人形類が、展示されています。2つの展示を通して、日本に息づくおもちゃの数々を、心のどこかにある子供の心で感じ、様々な角度から眺め、楽しんで頂くことができたなら、幸いです。(文責:川上亜衣子)

展示場所：金井書店八重洲店 & 八重洲古書館  
開催期間：2000年11月1日(水)~11月29日(水)